設楽発掘通信

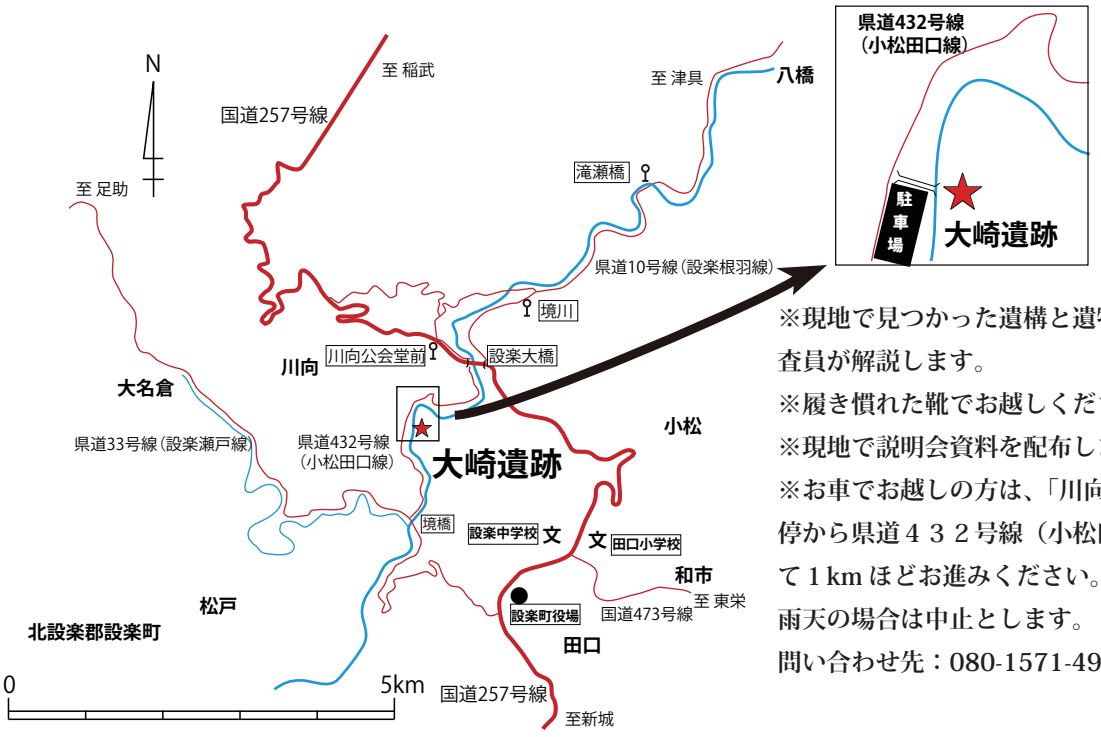
No.71
令和４年
７月号

大崎遺跡の地元説明会開催します

今年度の設楽ダム関連の発掘調査は五月より始まり、足掛け三ヶ月が経ちました。現在、上ヲロウ・下ヲロウ遺跡の調査が終了し、大崎遺跡の調査は継続中です。なお、上ヲロウ・下ヲロウ遺跡の調査成果についてはｗｅｂ説明会で紹介する予定です。また、七月からは下延坂遺跡の調査を開始するところです。

さて、現在も調査中の大崎遺跡は、二頁で紹介したような形で、今年度も新たな発見が日々続いています。

つきましては、八月二〇日の土曜日に、大崎遺跡の地元説明会を開催することになりました。昨年度の調査では、鎌倉時代の水田跡をはじめ縄文時代・弥生時代の遺構と遺物がまとまって出土しました。昨年一二月一九日の説明会は雪の中で開催いたしましたが、今回は残暑厳しい中での開催となりそうです。開催に際しては、引き続き新型コロナ感染拡大防止に留意いたします。ご来場時は暑さ対策も忘れずに、ご参加ください。（永井宏幸）



※現地で見つかった遺構と遺物について、調査員が解説します。
※履き慣れた靴でお越しください。
※現地で説明会資料を配布します。
※お車でお越しの方は、「川向公会堂前」バス停から県道４３２号線（小松田口線）に入って１kmほどお進みください。
雨天の場合は中止とします。
問い合わせ先：080-1571-4985（永井）

日時：令和４年８月20日（土）午前11時～　　場所：大崎遺跡発掘調査現場

図１　大崎遺跡地元説明会の案内図

大崎遺跡について

大崎遺跡は昨年度に引き続き発掘調査を開始しました。ここでは、昨年度の調査成果と今年度の展望について説明します。

昨年度の調査は、①中世の水田関連遺構、②縄文時代中期～弥生時代中期の集落、③縄文時代早期の遺構、以上３つの成果がありました。

まず、中世の水田関連遺構は、調査区の北東から南西に向かって展開していました（図２黒い点線で囲った範囲）。遺構は、導水路と畦畔、耕作土で構成されています。一区画の田面は約４ｍ四方を測り、中世の水田としては比較的小区画の田面です。類例は非常に少なく貴重な発見と言えます。遺物は伊勢型鍋や山茶碗が出土しています。

次に、縄文時代中期（橙色）～弥生時代中期（黄色）の遺構は、水田関連遺構の直下、調査区の南西部に広がっていました（図２橙色の点線で囲った範囲）。遺構は竪穴建物跡が二〇棟近く見つかっており、長期間居住地であったと思われます。（図４）。これら竪穴建物跡が見つかった箇所のさらに西では、縄文時代後期末から晩期ごろの遺構と遺物が集中しています。主な遺構としては竪穴建物跡と土坑墓が確認されています（茶色）。

最後に、縄文時代早期の遺構は、煙道付炉穴が見つかっています。二つの土坑を連結した炉穴です。礫を入れて改修しています。

今年度の調査はどのような成果が予想されるのか説明します。

まず、昨年度の調査区の北側にある２２Ａ区ですが、中世の水田関連遺構の続きが想定されます。昨年度の調査成果と合わせることで大崎遺跡に展開していた水田関連遺構の全体像が明らかになるものと考えています。

昨年度の調査で縄文時代草創期以前の遺物が発見されたことから、その遺物が分布する区域を２２Ｂ区として追加調査します。石器などが見つかるかもしれません。

今年度の調査でどのような遺構が見つかるのか、今後速報をお伝えしていきますので、ご期待ください。（社本有弥）

図３　大崎遺跡の中世の水田跡

図４　大崎遺跡 22A 区の調査風景

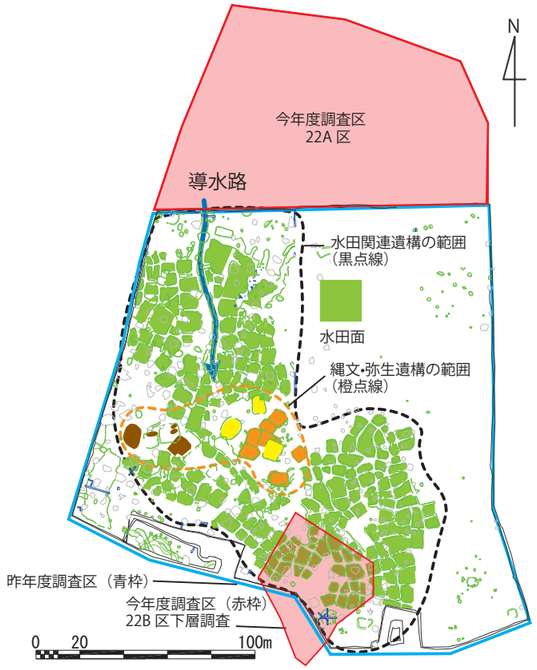


図２　大崎遺跡全体図

上ヲロウ・下ヲロウ遺跡について

上ヲロウ・下ヲロウ遺跡の調査は、今年で四年目になります。今年度は、遺跡範囲の北西端に三四〇㎡の調査区が設定され、六月十三日から七月十五日まで実施しました。今年度の調査の成果は、以下のようになりました。

時代・時期	遺構	遺物
縄文時代後期	竪穴建物跡か	縄文土器・石器（剥片）
鎌倉・室町時代以降	**道状遺構**	**灰釉陶器片・山茶碗・土師鍋片**
戦国期～江戸	平坦面・整地層	瀬戸美濃系 小皿
江戸	土坑（墓坑か）	青銅製品（キセル片）

今回、特に注目される成果は、道状遺構が見つかったことです。調査直前に上ヲロウ集落内へ入る道であったこの場所は、明治時代初期の地籍図や近世後半の村絵図にも、集落に入る道の存在が記載されています。今回の調査では、実際の発掘調査でその存在が証明されたことになりました。道状遺構は、もともと浅い凹みの溝のような形状であったところに、土を入れて整地をしていることが分かりました。整地層には周囲の片麻岩礫のほか、炭化物粒や焼土が所々に散在しており、埋められている様子を観察できました。整地層内からは古代の灰釉陶器片や中世前半の山茶碗・土師鍋片が出土しており、整地自体は中世前半期以降に行われた可能性があります。この道状遺構は、北東側にのぼるところで、戦国期から江戸時代の平坦面造成によって、途切れてしまっているようです。この調査では、現地での説明会を実施することができませでした。ｗｅｂによる説明会を予定していますので、改めてお知らせ致します。（川添和暁）

図５　上ヲロウ・下ヲロウ遺跡全景
（北東より　白矢印が今年度調査区の位置）

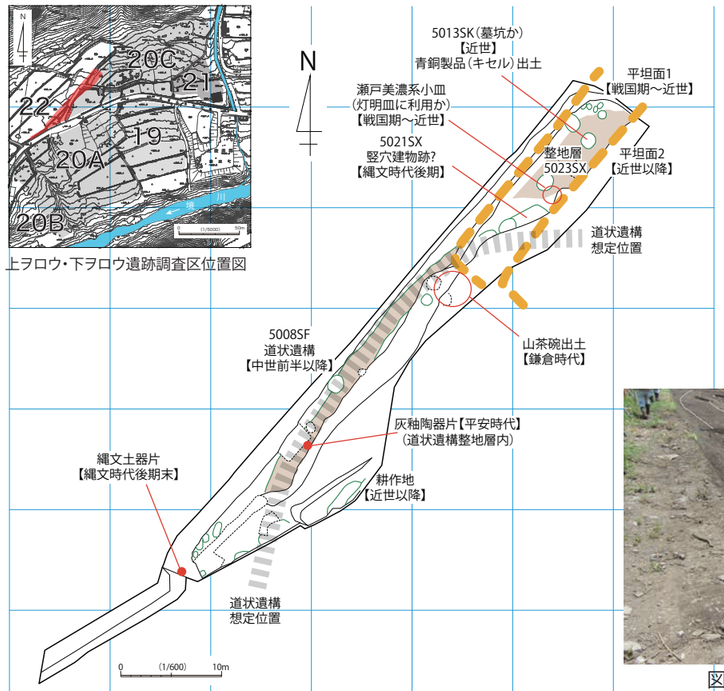


図８　上ヲロウ・下ヲロウ遺跡 22 区遺構位置図

図６　道状遺構の土層断面
（焼土の堆積が見られます。）

図７　道状遺構の検出状況
（南西より　白線内が遺構）

設楽ダム工事事務所で展示中です

町役場の道路を挟んだ東側に設楽ダム工事事務所の「広報展示室」が、今年の四月二一日にオープンしております。設楽ダム周辺の地形模型に映し出されるプロジェクションマッピングをはじめ、豊川水系の衛星写真、設楽ダムに関するパネル展示など、設楽ダム事業に関わる事柄がまとめて展示されています。「設楽ダムだより」第一三九号および第一四〇号に掲載されていることから、皆様もご存じかと存じます。

今回、この設楽ダム広報展示室の一角に、期間限定ではありますが、埋蔵文化財の展示を行うこととなりました。すでに「設楽ダムだより」第一四一号でお知らせしている内容ではありますが、展示を実施した担当から改めてご紹介できればと思います。

この展示のコンセプトは、大きく以下の二点です。一点目は設楽ダムの関連調査で出土した資料を紹介することです。二点目は縄文時代と弥生時代の流れを、出土土器を用いて展示することです。展示資料は、小松地区の笹平遺跡と、川向地区の上ヲロウ・下ヲロウ遺跡出土土器にしました。どの資料も保存状況が良好で、設楽ダム関連調査の資料を代表するものだと考えています。

この中でも、笹平遺跡から出土した、弥生時代前期の条痕文壺はとても大きく、迫力があります。当時のお墓の一種である土器棺墓の棺の身として用いられたものです。土器の作り方を見ますと、胴部を中心に縄文時代の土器づくりの伝統がある一方、頸部より上は弥生時代の土器づくりの方法が色濃く見られます。このような在り方が、設楽地域の考古学的事情を象徴すると言えます。

展示は、六月三〇日から八月二二日までの、月・木・金曜日の、一〇時から一二時、一三時から一六時までとなっています。この展示資料は、奥三河郷土館で八月三〇日から始まる令和四年度愛知県埋蔵文化財センター秋の埋蔵文化財展「悠久の記憶～設楽ダム関連発掘調査成果展～」にも展示予定ですが、今回の展示はこれとは趣向を変えた展示となっています。機会がありましたら、是非、広報展示室での展示をご覧頂き、秋の埋蔵文化財展との違いを確認して頂けると幸いです。（川添和暁）

図９　設楽ダム工事事務所 広報展示室での展示の様子

設楽発掘通信

No.71

令和４年７月号

編集・発行　公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団

愛知県埋蔵文化財センター

〒４９８－００１７ 愛知県弥富市前ヶ須町野方８０２の２４

電話 （０５６７）６７－４１６１【管理課】４１６３【調査課】

ホームページ http://www.maibun.com

Facebook https://www.facebook.com/maibunaichi

Twitter https://twitter.com/aichi_maibun

印刷・協力　株式会社アコード